

MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT



マミヤカメラクラブ

マミヤカメラクラブはマミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会いただける写真クラブです。マミヤカメラクラブ会報誌 (Mamiya Gallery) の発行 (原則年2回)。プロ写真家による撮影会・勉強会・セミナーの開催。webギャラリーで会員の作品展示、マミヤ製品修理・点検料金の割引等と会員特典もたくさんあります。マミヤカメラに関する情報、会員相互の親睦と写真技術向上をめざし、素晴らしい写真の世界をご堪能ください。



入会費用

入会金 1000円 (税込)
年会費 3000円 (税込) ご入会日より1年間。
※但し2年分の年会費をご入会時にお納めください。

特典

- マミヤカメラクラブ会報 (Mamiya Gallery) の発行。
- クラブ撮影会の開催。
- 勉強会・セミナーの開催。
- ホームページ上に会員作品ギャラリーの開設。
- マミヤ製品修理・点検料金の割引。
- 会員証、オリジナル会員バッジ提供。
- オリジナル会員名刺制作 (有料)。

●製品・修理に関するお問い合わせは、東京サービスセンターへご相談ください。

- 修理をはじめオーバーホール、清掃等を承ります。
- 東京サービスセンターショールームにはマミヤ全機種を展示しています。
- 実際に製品を手にとって操作感や質量感を確かめられます。また、選定のアドバイス、操作上の疑問にもお答えしています。

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

東京サービスセンター
〒112-0004 東京都文京区後楽 1-2-2 ココタイラビル 1F
TEL.03-6748-1983 FAX.03-6748-1991
営業時間 9:00~17:50 土、日、祝日は休業



マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 ワイズビル 株式会社ワイズクリエイティブ内
TEL.03-5689-2776 FAX.03-5689-2786
E-mail :info@mamiya-club.com

- マミヤカメラクラブの入会お申込み等お気軽にお問い合わせください。
- 撮影会・イベントのお申込み・お問い合せを承ります。
- 下記、ホームページでも詳しくお知らせ致しております。是非ご覧ください。

マミヤカメラクラブホームページ <http://www.mamiya-club.com/>

●株式会社ワイズクリエイティブでは、下記のような業務を行っています。

- ◎マミヤカメラ製品・大中判カメラ販売を致しています。
- ◎撮影アクセサリ、ザックの販売を致しています。
- ◎プロラボ現像・プリントを承ります。
- ◎撮影会・ワークショップ・セミナーを開催しています。

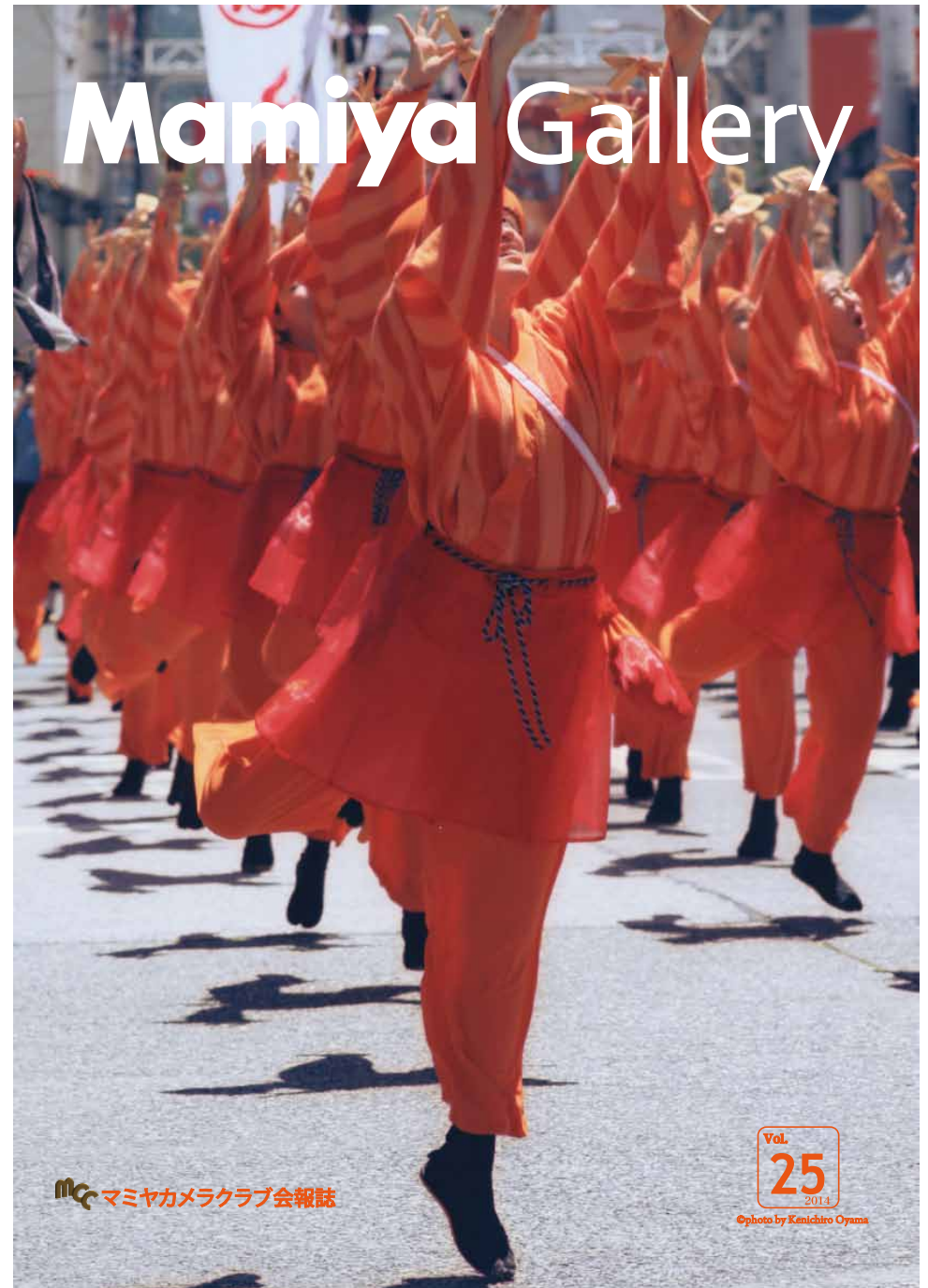
ワイズクリエイティブは写真を通じて人と人、人と自然とのコミュニケーションを確立する事を目的とするフォトオフィスです。

大中判カメラ専門ショップを展開、自然写真家、山岳写真家による写真セミナー、撮影会の開催、写真集の出版、写真レンタル、各種制作業務等、写真に関するソフトとハードあらゆる業務を行います。

www.yscreate.co.jp



Mamiya Gallery



MCC マミヤカメラクラブ会報誌

Vol.
25
2013

©photo by Kenichiro Oyama

今号の巻頭企画は、広告写真撮影のスタジオから独立し、その後パリに5年間在住しパリコレの撮影や女性写真の撮影を行い一躍脚光を浴び女性写真の第一人者となった大山謙一郎さんに迫りたいと思います。特に近年は写真教室を主宰したり、故郷の熊本にスタジオ・ギャラリーを開設するなど積極的な活動展開していますので注目です。
(木戸)



大山 謙一郎 (おおやま けんいちろう)
1939年熊本に生まれる。1972年G.T.Sunを経てフリーランス。フランス(パリ)へ。女性誌の取材、カレンダー、ポスター等の撮影に従事。1976年アメリカ建国200年を取材。1977年東京銀座に事務所を開設。1987～88年アサヒカメラ審査員。1989年日本写真学園講師。1989年～全日本写真連盟関東本部委員。1990年日本カメラ審査員。1992年フォトコンテスト、CAPA審査員。1977年より個展(大山謙一郎凝視展)を38回開催。キャノンイオス学園講師。写真集多数発行。全日本写真連盟関東本部委員。日本写真家協会会員。2012年熊本にスタジオ、ギャラリー、写真図書館がひとつになった「写真の家」を開設。



インタビューのためにワイズクリエイティブにご来社頂いた大山謙一郎さんは、淡いピンクのズボンにアロハシャツ、そして赤いバックを肩から下げて、白フレームのサングラスをかけていました。いや～っ、やっぱりオシャレですね。この年代でここまでオシャレの人は滅多にいませんね。

Q. 写真との出会いは?

高校の時に写真と出会い、大学は日本大学写真学科に入学しました。アルバイトでコマーススタジオのアシスタントをして学費を稼ぎましたが、その時撮影していたのは、有名なお酒や乳製品のメーカーの製品でした。このスタジオに約1年半居ましたが、写真の世界を知る大変有意義な時間だったと思います。

その後、デザイン会社に入りカメラマンとして多くのコマース写真を撮影しました。そこに2年居て、その後当時としては大規模のスタジオに入社し、8x10インチの写真を毎日何枚も撮影していました。時には11x14インチの写真も撮影しました。

ヨーロッパを40数日間取材する仕事があり、その時に昼間からワインを飲んだり、パリの街と自分との波長の良さを感じ、1972年に独立しパリに移住してしまいました。パリには5年居りました。仕事は主にパリコレ関係でケンゾー、芦田淳、三宅一生さんなどの写真を撮っていました。この時の苦勞は外人カメラマンに混じって、より積極的な撮影姿勢が求められたことでした。日本人モデルの半分は山口小夜子さんとも一緒に仕事をしてよく写真も撮りましたよ。その他ファッション誌や女性誌の仕事も沢山やりましたよ。だから写真の下積み時代に写真の何たるかを学び、フリーとなったパリ時代に今に繋がる原点となる仕事をしていたことになりました。

Q. 近年の活動は?

いろいろな撮影仕事をこなしていますが、撮影の他にもキャンソークルの添削業務もやっています。約90支部の中から10支部を担当しています。これが結構大変で、LLサイズのプリントを一人3点添削する訳なのですが、トレーシングペーパーを掛けて1枚1枚直筆でコメントを書いています。また国内撮影会は毎月、海外撮影会も不定期ですが開催しています。更に2012年1月には故郷の熊本にスタジオ、ギャラリー、写真図書館と一緒に「写真の家」を開設しましたので結構忙しく動き回っていますよ。

インタビュー 写真家・大山謙一郎さんに迫る



BS ジャパンで放送した「写真家たちの日本紀行」では「熊本の旅」と題して故郷・熊本の歴史ある石橋や地元の人達のスナップ写真を紹介しました。



アマチュアカメラマンを対象にした撮影会では自ら実践して撮影技法を教えています。



第36回の「凝視展」は話題となったブータンの撮影ツアーの作品をまとめて全国のキャンソークラリーを巡回展示した。



「凝視展」作品前のスナップ。作品の展示方法にも拘りを持って。



22回目の「凝視展-戯れごと」の時には写真集も出版しました。内容は大山謙一郎さん、得意のヌード作品でした。

Q. 毎年開催している大山謙一郎「凝視展」について?

1977年から「凝視展」と言うタイトルの写真展を38回連続して開催しています。これは洋服のデザイナーが毎年自分のデザインの洋服を発表するのと同じで、「俺は今こういう写真を撮っているよ」という世間に対するメッセージのつもりです。ですから内容はその年にあった出来事や、興味を持った事、更には海外取材旅行の作品発表だったりします。そしてこれからも「凝視展」は続けて行くつもりです。

Q. 撮影会について?

アマチュアカメラマンを連れて東京の町を歩き、撮影する「変貌する東京」と題した撮影会を毎月開催していますが、撮影後の一杯もあって結構人気がありますよ。また不定期ですが年数回の海外(ブータン・キューバ・ベトナム・ミャンマー・香港・マカオ等)ツアーを開催しています。一昨年は幸せの国・ブータンに撮影ツアーを組んで、その時に撮影した作品をまとめてキャンソークラリーで凝視展を開催しています。また今年はスリランカの撮影ツアーを予定していますので興味のある方はお問い合わせください。



Q. ライフワークとされている「よさこい」について？

たまたま別の仕事で高知に来ていて「よさこい」に遭遇したのがきっかけです。もう20年も撮影し続け、「炎えた女」と題した写真展を3回開催し、1994年には同名の写真集も出版しました。今年、2月には高知観光協会からの要請で、高知よさこい情報交流館で同名の「炎えた女」写真展を開催しています。多くの来場者があり高知県知事まで会場に見えましたよ。ポスターには「よさこい写真の巨匠」なんて書かれてちょっと参りましたね。

「よさこい」の写真撮影する時は「祭の中の女性の美しさ」を表現する事を第一に考えています。普通モデルはカメラマンの注文通りに動きます。「よさこい」では自分の意志で動き、表現する姿が美しい。近年はモダンダンスの先生がチームリーダーとなり踊りの形は大きく変貌しているが、故郷に戻って祭りに参加し、心に満ちた思い、エネルギーを発散させ踊る女性の美しさは変わらない。

今まで撮影した作品はフィルムで10万カット。デジタルになって10年ですからそれ以上のカットがあることになりませんが、少し先にこれをまとめた写真集を発行しようと計画しています。ただ、作品をまとめるだけで大変な仕事になっていますので時間がかかってしまいそうです。

20年間と言えば、20才だった娘が40才になっていることです。それだけの時間を費やして、よさこい祭りを撮り続けているので写真集を出したら売れると思いますよ。



2014年2月に高知よさこい情報交流館で開催された大山謙一郎作品展「炎えた女」のポスター。「よさこい写真の巨匠」のコピーが20年間の取材活動を物語ります(写真右)。1994年に出版された、大山謙一郎写真集「炎えた女」は幼児から50才位までの女性がモデルとなっています。





自衛隊の演習地に隣接する「写真の家」。



途中、「Wel come 大山」の看板がお迎えます。



残念。台風で看板が飛んでしまった「写真の家」。



「写真の家」の拘りは、柱無しと高天井です。



知り合いから多くの書籍が寄贈されてきます。



近所の人も集まるアットホームな「写真の家」。

Q. 熊本に開設した「写真の家」について？

近頃、女性の裸の写真は発表しづらくなってきました。それでは自分のギャラリーを作っちゃえば良いと故郷・熊本に2012年1月、広さ100平米の「写真の家」を開設しました。熊本市内から自動車でも40分と少々不便ですが、その分広くて自然が残っている場所です。

建築に当たり、知り合いの建築家何人かに相談したところ、デザイン、建築費で2~3000万円も掛かってしまう事と、どうしても建築家のデザインが入って凸凹な建物になってしまいそうだったので、地元業者と相談して四角い建物を建てました。拘りはスタジオ用としても使える事から天井が高くて柱が無い事でした。

「写真の家」の建設コンセプトは、(1) ギャラリー (2) スタジオ (3) 写真関連の図書館の3つの機能がある事です。まああとはちょっとしたスペースで皆でお酒が飲める事かな。

ギャラリーには早速、私の写真を飾りました。また図書館には著名写真家や知人の写真家の写真集、アサヒカメラ、日本カメラ、フォトコンの過去20年分のバックナンバーも蔵書しました。さらに写真関係の知人からの寄贈もあり、現在7000冊を蔵書しています。スタジオとしては窓を2カ所しか作らなかったため、そこさえ塞げば直ぐに撮影ができるので便利です。

Q. 「写真の家」の今後の展開について？

始めは有料のギャラリーを考えていましたが、田舎だとお金が取り難いんですね。近所の人を撮影してやっても「ケンちゃん、ありがとう」と無料になってしまうのでね。それならばと、今、行政と提携して「写真の家」を展開しようと考えています。

また、「写真の家」の近くには、放水する事で有名な『通潤橋』、棚田百選のひとつになっている『菅地区棚田』、更には郷土芸能の『清和文楽』を上演する常設の劇場もあるので、「写真の家」を拠点にしたいろいろなワークショップの開催計画もあります。もちろんヌード撮影会もインドア、アウトドア両方で出来ますよ。

Q. 活動拠点が東京と熊本、ふたつある事は？

月に1回は必ず「写真の家」に行きましたが、近頃、東京での仕事が忙しく、ここ数ヶ月は行っていません。「写真の家」の活動計画はまだ進行途中ですから、計画が決まり軌道に乗れば、熊本に住む事も考えていますよ。

Q. マミヤカメラについて？

昔、コマーシャルカメラマンのアシスタントの時に「マミヤC3」を買って、ペンタプリズムファインダーを付けて使っていました。その後、レンズ交換が出来た「マミヤC33」も使いましたね。田舎の叔父の葬式写真を撮影したことも覚えてます。安くて良いカメラだったな。



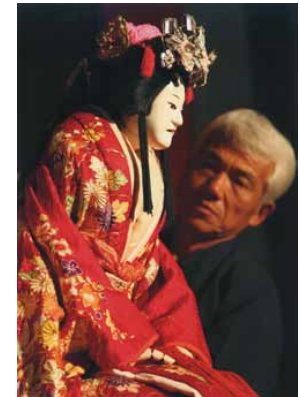
棚田百選のひとつ「菅地区棚田」。



庄巻!『通潤橋』からの放水は1日2回実施される。



黄色一色に染まった棚田も絶好の被写体。

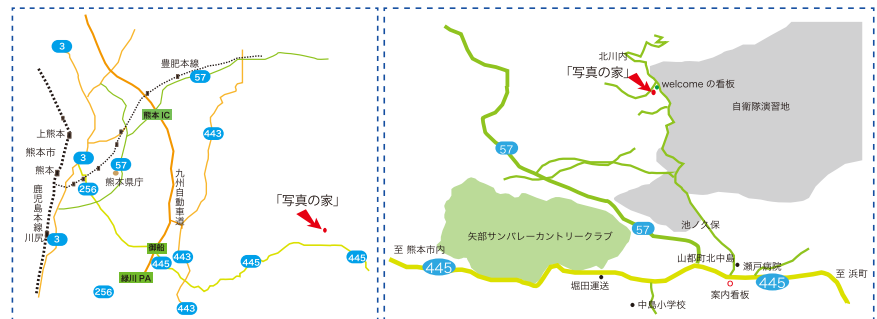


郷土芸能の『清和文楽』練習風景を撮影。

大山謙一郎「写真の家」ワークショップ 事前登録メンバー募集中!

「写真の家」では今後、石橋、棚田等を被写体とした「自然写真ワークショップ」と、女性ヌードを被写体とした「女性写真ワークショップ」を計画しています。事前にお名前、連絡先を登録頂ければ、開催時に優先的にご案内致します。興味のある方は事務局までご連絡ください。

大山謙一郎「写真の家」
熊本県上益城郡山都町北中島2957-1 TEL 0967-75-0865



『体力の続く限り登りたい、そして撮りたい山の写真』

太田秀男さん

ラージフォーマットの精密描写や豊かな階調のプリントに憧れ、大・中判カメラを使い始めたのが 20 代後半、中央アルプスの麓で育ったためか山が好きで山歩きを始めたのも 20 代後半、必然カメラを持って山に登る事になります。

はじめはマミヤの 645、次にフィルムホルダーが突換出来るマミヤ RB67 フロ s、大判はウイスタ 4x5 と使って来ました。特にマミヤの RB67 フロ s はレンズも 65 ミリから 360 ミリまですべてそろえ、使い始めてから 35 年間一回もトラブル無く使って来ました。一度、冬山で突風に三脚ごと吹き飛ばされて雪の岩場を転げ落ちましたが無事でした。

本当に素晴らしいカメラですが、60 代に入るとさすがに体力も衰えて RB67 一式を背負い上げるのは困難になって来たので、一眼レフのようなファインダーの中で被写界深度やボケ味などは確認出来ない不満はありますが、今は少し軽いレンジファインダーのマミヤ 7II に替え 65 ミリと 80 ミリを持って山に登っています。もちろん三脚もマミヤのカーポントライポッド AY703 と AY702 を使っています。

今はデジタル全盛の時代になりましたが、やはり「こそぞ!!」というシーンに出会うとフィルムに納める方が撮影した実感や安心感があります。



『朝の穂高岳』
マミヤ RB67 フロ s 8 月



『初夏の五竜岳』
マミヤ RB67 フロ s 7 月



『朝日に輝く穂』
マミヤ RB67 フロ s 8 月



『錦秋の瀧沢』
マミヤ 7II 10 月

『生まれ育った 長野の山に拘りを持つ』



『晩光鏡演』
マミヤ RB67 フロ s 5 月



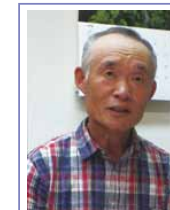
『黄金色のスプーンカット』
マミヤ 7II 7 月



『朝焼けの岩壁』
マミヤ 7II 6 月



『夕暮れ迫る三ノ沢岳』
マミヤ 7II 9 月



太田 秀男
(おおた ひでお)

1950 年長野県駒ヶ根市生まれ。自営 (石材業経営)
 ・マミヤカメラクラブ会員
 ・日本山岳写真協会会員
 ・長野県写真連盟会員
 ・駒ヶ根写真クラブ理事
 ・フォトクラブ「光影」顧問
 ・島赤須フォトクラブ代表
 昭和 62 年日本フォトコンテスト誌カラー大型フォト
 サロン年度賞第 5 位受賞など写真受賞歴多数
 URL <http://www.cek.ne.jp/~oochan/>

「編集方針は読者を大事にする事」 藤森 邦晃フォトコン編集長に聞く。



藤森 邦晃 (ふじもり くにあき)
1976年長野県諏訪市生まれ。株式会社日本写真企画取締役
フォトコン編集長。趣味は写真撮影、プロレス、野球観戦など。

1973年11月に秋山庄太郎氏や林忠彦氏など錚々たる写真家の肝入りで設立された日本写真企画社。設立当初からカメラ雑誌・フォトコンテスト(現フォトコン)を創刊し、多くのアマチュア写真家のバイブル的なカメラ(写真)雑誌へと成長し40年を迎えました。今号の「この人を訪ねて」は、そんなフォトコンをまとめる若き編集長・藤森邦晃さんにご自身の写真経歴や今後のフォトコン誌についてじっくりとインタビューしました。(木戸)



八丁堀と聞いて思い起こすが、「八丁堀同心」。何て言うのは昔の人か時代劇が好きなんですね。今、八丁堀と言えばカメラ雑誌でお馴染みの「フォトコン」です。地下鉄日比谷線、八丁堀駅又はJR八丁堀駅で下車し、地上道路に出るとガラス張りのJR八丁堀ビルが在ります。このビル6階が日本写真企画社です。
東京都中央区八丁堀3-25-10
JR八丁堀ビル6F

Q：日本写真企画社とフォトコンについて

当社は1974年(昭和48年)に写真家の秋山庄太郎先生、林忠彦先生などの協力により「二科の人たちの発表の場」を提供するカメラ雑誌社として設立されました。今年で40周年なんですよ。当初は書籍名を「フォトコンテスト」としたかったのですが、それ以前にこの名称の雑誌があったので、頭に「日本」を冠して「日本フォトコンテスト」としてスタートしたと聞いています。その後、いまのような風景写真ブームより前に、当時としては珍しい風景写真を中心に扱う大判サイズの「素晴らしい自然」(現休刊)を刊行したり、初心者カメラマン向けの季刊誌「100万人の写真ライフ」(現・写真ライフ)を発行し、現在に至ります。またその他にも著名な写真家からアマチュア作家までの写真集やハウツーなどの写真関連書籍の出版、イベントの企画・催行・協力などの業務も行っています。特に誌名の通り「フォトコンテスト」に精進しているものですから各メーカーさんと全国の地自体のフォトコンテストに協力することが多いです。



ネイチャーフォト中心が珍しかった「素晴らしい自然」

Q：写真(カメラ)との出会いは?

生まれ育った長野県諏訪市はカメラ関連メーカーも多く、父親がレンズメーカーに勤務していたことや、地元の写真クラブや二科展などに応募していた影響で小学生の頃からカメラは身近な存在であったと思います。ですから長野県展や月刊カメラマン、三菱の写真コンテストに応募し、図書券2万円分を頂いたこともありました。野球やスピードスターをやっていた写真部等には所属したことはありませんでした。ただ父親に連れられて二科会展や、それこそ日本写真企画社などにも顔を出して写真が身近であったことは変わりませんでした。(ちなみにお父様の藤森順二さんは長野で活動するアマチュア写真家も多く写真展を開催し、今年も6月にリコーイメージングスクエアで藤森順二写真展「諏訪湖憧憬」を開催したばかりです)大学生になって3年までにほとんどの単位を取得して、4年の時はゼミの1日しか学校に行かなくてよかったのているとアルバイトをしていましたが、11月に始めたのが日本写真企画でのバイトだったのです。仕事内容は写真を整理したりコピーしたりの雑用が多かったですね。そして卒業の1999年の春から社員として正式入社して編集部に所属しました。

Q：フォトコン編集長について

私で四代目の編集長になります。初代の河野真進さんが約10年、二代目の板見浩史が約20年、三代目の黒部一夫さんが3年。四代目が私で2008年から編集長をしています。先程の経歴でもお話しした通り、写真関係の仕事に従事していたとはいえ、アマチュア写真家だった父親の影響もあり、アマチュア写真家の方たちが、どのような活動をしているかは理解しているつもりもあって、フォトコン誌の基本理念でもある「アマチュア写真愛好家のために雑誌づくりをする」というのに役立っていると思っています。

Q：藤森フォトコン編集長の特長は?

私が編集長になるまではどちらかというと他のカメラ雑誌と似て行く傾向にあったと思います。それはいろいろな作家を使って幅広い情報を提供する方向性でもありました。そこで基本に戻ってアマチュア写真家のためになる本であることを考慮して、アマチュア写真家の身勝手なテーマを取り上げて、読めば写真が上手くなり、情報も得ることが出来ることを目指しています。だから新製品のスペックがどのようどかはそれほどウエイトを置かずあくまでもソフトを中心とした内容にしたいとも思います。また巻頭の口絵ページの特集を後に持って来て、巻頭をアマチュア写真家のコンテスト作品にしたのもひとつの特長かもしれません。

Q：フォトコンテストの扱いについて

創刊当初よりは少なくなりましたが、フォトコンテストにはこだわりたいと思っています。巻頭口絵を月例コンテストにしたのもその例ですが、読者の作品をより大きく見せたいという気持ちがありました。今、コンテストは中・上級者のネイチャーフォトの部、自由作品の部。初級コースが同じネイチャーの部、自由の部、組写真の部、そしてモノクロ写真招待席の合計6部門で行っています。応募の規制はありませんので、作品発表の場だと思ってどんどん応募いただきたいですね。ただ読者の中でコンテストに応募するのは数割で残りの人はコンテストに掲載されて写真を見て勉強されているので、審査員の選評も私たちとしては大事にしています。また創刊から行っているコンテストの年度賞ですが、昔は年度賞を獲ることがプロへの登竜門的な考え方がありましたが、近年はそういう方は減ってきたように思います。プロへの道というよりもやはり作品発表の場であり、自分の写真のレベルが全国的にどの位置にあるのかを知るといったためのものであると思います。

Q：コンテストに応募はもちろんですが、作品持ち込みは有りですか?

直接持ち込まれる場合はアポを取って頂きますが、皆さん送ってこられるケースが多いです。この場合はプリント20~30枚を1テーマとしてポートフォリオとしてまとめて、どのような思い入れで撮影したかをお書きください。また写真展などの開催予定がある時は早め送っていただければと思います。ちなみに口絵などは半年や1年も前から決まっているわけではありません。数か月前からいただきたいスケジュールを決めて掲載しています。ぜひこちらももお送りください。ただ採用できない時はお断りしています。

Q：フォトコンの販売が好調の様ですが新企画や新メディアについては?

ここ数年、対象をはっきりさせた効果ができてきていると思います。新しい写真も増え、若い編集部スタッフから新しいアイデアがたくさん出るようになったことがいい循環を生んでいると思います。また、弊社の基幹誌であるフォトコンだけでなく、写真ライフも内容を刷新し、初心者にとって参考になる本になって人気です。そのほかにもプロレスや相撲、ゴルフ、プロ野球とのタイアップ撮影会や演歌の森島さんなどと組んで開催したフォトコンテストなど他にはない企画も行っています。これらの企画で本誌読者に楽しんでもらうということもありますが、プロレスファンや相撲ファンが新たに写真ファンになって読者になることもあります。新しい業種や業界と接点ができると自然とバイブルも太くなって行きますので、写真とは関係ない書籍の発行もプランにはあります。もちろん当社の基幹はフォトコンであることは普通ですが、こうしたことで、写真を楽しむ人たちが少しでも増やすことができればと思っています。



森島新曲フォトコンテストポスター



Q：デジタルカメラの台頭については?

当初は読者の中でもデジタルカメラへの移行に関して大きな抵抗がありました。ただその抵抗感もエポックメイキングといえるようなデジタルカメラが出現するたびに薄れていきました。今は自由部門では9:1、風景部門であれば、7:2の割合でデジタルになっています。ただデジタルの場合でもデータでの応募はお断りしています。フォトコンはいちばん最初にメール応募のコンテストを開催しましたが、やはり写真になってこそ写真だ、ということで、プリント・ポジでの応募としています。カメラ雑誌社としては今後も銀塩フィルムの良さを伝えるのも役目だとも思っていますのでいろいろ企画を考えていきたいと思っています。

Q：最後にフォトコンの強みを教えてください。

アマチュア写真家の作品を発表する媒体として全国に読者を有していることが一番だと思います。そして今は地域での取材や撮影会やイベント開催も増え、毎月2~3回の出張があります。そういうときに読者の声を身近で聞いて誌面に反映できるんです。また中高年読者のために文字は大きく、文章は短くして読みやすくしている点も強みかも(笑)。

この人を訪ねて 4



ドアを開け社内に入ると「こんにちは、いらっしゃいませ。」と元氣な声で出迎えてくれました。



2つある編集部がブロックになってキレイに並んでいます。経験上、きれいな編集部ペスト3に入ります。



簡単な書籍の発送もここでできます。整理整頓された棚は何の本があるか一目瞭然です。



パーティションには美指中の高品質の新曲「はぐれどり」発売記念フォトコンテストのポスターが貼られています。何でも次の企画は巨人戦だとか? (写真上)
一写真家会議室の書籍には「素晴らしい自然」や写真集も沢山掲載されています。これならばバック探して見る事ができますね。写真中「フォトコン」、写真下「写真ライフ」。

定期購読のお知らせ

	フォトコン 1年間 (12冊) 15,000円	写真ライフ 1年間 (4冊) 3,200円
--	--------------------------------	------------------------------

○優先的にお届けします。
印刷上がり次第、優先的にお届けします。 発売2~3日前にクロネコメール便で発送いたしますが、配達事情により到着が発売当日になってしまう事もございますのでご了承ください。
なお送料は無料です。

○この商品は年間定期購読ですので、配送方法はクロネコメール便のみとさせていただきます。
○ただし新規でお申し込み頂いた方に、もれなく「フォトコン」ロゴ入りレンズ拭き兼用シリコンクロスケースを進呈しております。

■お問合せ先 日本写真企画 電話 03-3551-2643
○ママギャラリーを見てお伝えください。

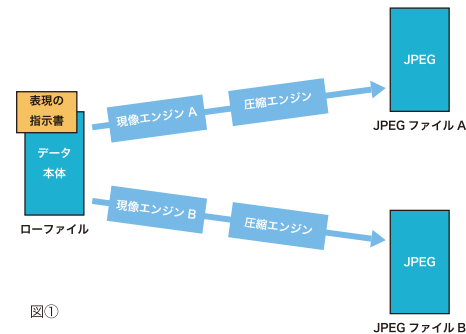
ローファイル現像のススメ (Phase One Capture One ソフトウェア)。

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社 福澤 強志

デジタルカメラのローファイル現像をおすすめします。

MCC の皆さんは勿論中判・大判カメラでの撮影、作品制作を楽しまれていると思いますが、一方でデジタル一眼レフカメラでデジタルの撮影も楽しんでいるのではないのでしょうか？ デジタルカメラの楽しみ方はそれぞれですが、ローファイル現像はデジタル撮影の醍醐味の一つであると思います。

ローファイルはローのファイル、つまり「RAW ファイル＝生のファイル＝未加工のファイル」のことで、デジタルカメラで撮影した大本の画像データのことを言います。この画像ファイル（画像データ）は各社専用のソフト、或いはその画像ファイルを見られるソフトウェアでないと開くことが（見ることが）できません。なぜなら、画像として見られるようにするには、ホワイトバランスをはじめとした各種設定を画像に適用して絵として見られるように生成しなければならないからです。ローは生のファイルですので撮像素子（CCD や CMOS）が RGB のフィルターを通して受光した光の強弱を記録しているデータ本体の部分と、カメラで設定された（撮影者が設定した）「ホワイトバランスは何々で、色味の傾向はこんな感じで、コントラストは強めに、シャープさは弱めに」などといった各種設定項目、別の言い方をすれば、撮影したデータの塊に対する表現の指示書の部分と併せて記録されます。



図①

どうい事が起きるか（起っているか）というと、現像エンジン（カメラ内部もソフトウェアも両方）が進化しているので、以前撮影した同じデータでも新しい或いは別の現像エンジンを使用することで、常に最新の画像、即ちより品質が優れている、即ち表現の幅をさらに広げることができます。JPEG でしか保存していなければ、これらのことをみすみす逃してしまおうと言うことです。数年前に撮影した場所へ赴き、新しいカメラで撮影し直しますか？やはり、JPEG ファイルと併せてローファイルも保存しておいてよいのではないのでしょうか。

ローファイル現像とは、撮影者が写真に表現したい様々なことを実現させるためのプロセスです。

デジタルカメラはフィルムと違い、記録できる撮影枚数が膨大でついつい一回の撮影枚数も多くなりがちで、撮影後のファイルの管理も頭を悩ます種になっているので、現像というプロセスを撮影後に行うのは億劫な事かもしれませんが、この億劫な処理を行うことでゲンと表現の幅が広がり、プリントも楽しくなることと思います。どうしても出せなかった、あるいはイメージと違う色味やコントラスト、シャープ感などを思い通りに表現できます。

Capture One ソフトウェアの基本画面

Capture One ソフトウェアは次ページ図②のように、各機能ごとにツールをまとめた「ツールタブ」と呼ばれるアイコンがあります。これを左から右へと各ツールで調整していき最後に現像ツールタブで現像すれば、高品質な JPEG ファイルや TIF ファイルが完成します。各ツールタブに多様なツールが用意されており、必要なツールを使ってローファイルを上上げていきますが、すべてのツールを使うことはまずありません。ツールタブはカスタマイズできますので、操作に慣れてきたら自分専用のタブを追加し、そこに使

うツールを登録すれば、現像まで完了する自分の専用ツールタブを作れます。

Capture One ソフトウェアの代表的な機能

○ハイダイナミックレンジ ツール

飛んでしまったハイライト部や、つぶれてしまったシャドウ部をスライダーの操作で救済します。

○レンズ補正 ツール

レンズ固有の歪みや色収差、周辺光量不足などを自動で補正することができます。ローファイルに記述されているレンズデータを読み取り、自動で登録されているレンズプロファイルを適用します。

○LCC (レンズキャスト キャリブレーション) ツール

上のレンズ補正ツールでサポートされていない場合に、独自にユーザーが LCC プロファイルを作成することができ、スライダーを使ってその効果をコントロールすることができます。（周辺光量不足の加減をユーザーがコントロールすることができます）

○キーストーン ツール

パースペクティブ ディストーションの補正をスライダーまたは水平・垂直のガイドラインを用いて簡単に補正することができます。

○ブラック&ホワイト ツール

チェックボックスをチェックするだけでカラー画像から高品質なモノクロ画像を作ることができます。モノクロになっても色の情報は保持しますので、各色のスライダーを操作することでコントラストを調整することが可能です。

現像エンジンの違いによる現像品質の差



同じローファイルを現像して品質の差を見えています。左の写真①は旧現像エンジンで現像され、②は新現像エンジンで現像されたもので、①の写真に比べ、ノイズ感、解像感の向上によりよりシャープに表現されていることが見て取れます。

現像エンジンの進化により諦めていた解像感が上がり、写真の表現が広がります。ローファイルであれば、今後更に進化した画像エンジンで現像することもできます。これは風景はもちろん、人物、商品撮影すべてのジャンルの撮影で有効です。

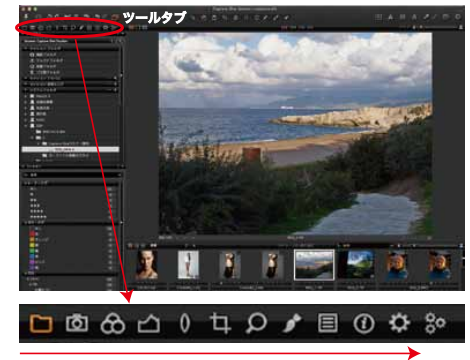
Capture One ソフトウェア

ハイエンドデジタルバックメーカーである Phase One 社が作った現像ソフトウェア、Capture One はとても簡単に高品質な写真へ現像することができます。下記のように多くのメーカーのカメラをサポートしていますので（下記メーカーの特定のカメラで、すべてではありません）、MCC 会員の多くが所有されているカメラのローファイルを現像することが可能であると思います。

Phase One、Mamiya、Leaf、Leica、Nikon、Canon、SONY、OLYMPUS、PENTAX、RICOH、Konica Minolta
FUJI、EPSON、Panasonic、SAMSUNG

Capture One は高品質でありながら、とても簡単な操作で誰でもすぐに思い通りの写真を作り出すことができます。Capture One ソフトウェアがサポートするメーカー及びカメラの最新情報は <http://phaseone.seesaa.net> をご参照ください。

■登録参加者募集■ Capture One の使い方セミナーの定期開催を計画していきますので楽しみに。
是非多くの皆さんにローファイル現像の楽しさを体感していただきたいと思ひます。（事務局まで申し込みください。）



図②

ワズクリエイトが提案するドラムスキャナで取り込む

ハイクオリティ銀塩プリントのおはなし。 (木戸)

ポジフィルムからのプリント作業が、引き伸し機を使用して光学的にプリントする方法から、スキャナーで読み込みプリントする方法になって1年以上が経ちました。

当初匠の技を持つ引き伸しプリントマンからパソコンを操作するオペレーターに作業が代わり、プリントの出来映えが極端に低下してしまっただけと言う声もありました。特に中判・大判カメラを使用するカメラマンの主たる被写体は風景写真(山岳写真を含む)で、新緑から青葉、紅葉と移り変わる緑の発色やグラデーション、日本人独自の色彩感覚が表現されない事、反対に綺麗に発色し過ぎてつまらない等の意見もありました。

しかし、各現像所もユーザーからの意見を聞いたり、1年以上の経験で風景写真プリントが大分良くなったのも事実です。

ワズクリエイトではこのポジプリントを更にクオリティアップさせる、ポジフィルムの取り込み作業であるスキヤニングに焦点を当てる必要があると解釈して、取引現像所との協議の結果、全紙サイズ以上のポジプリントについては全て濃度域に広いドラムスキャナを使用する事になりました。これにより更に素晴らしいポジプリントが完成致しますのでご注目ください。

スキヤニングって何?

プリントを出力する場合フィルムを一度デジタルデータ化しなければなりません。それにはフィルムをスキャナで取り込む必要があります。

スキヤニングの種類は?

スキヤニングするにはスキャナを使います。スキャナにはフラッドベッドスキャナとドラムスキャナの二つのタイプがあります。

フラッドベッドスキャナは原稿を固定しミラー又は読取り素子を駆動して撮像します。読取素子はCCDイメージセンサー等を使い光源としてハロゲンランプ、キセノンランプ、蛍光灯を用います。私たちが一般的に使うポピュラーなスキャナです。

ドラムスキャナは原稿に光を当て、フォトマルチプラーヤー(フォトマル)という受光素子を用いて反射あるいは透過した光を受光する装置です。キセノンランプを用い透明シリンダーに原稿を巻きつけ、一定のスピードで高速に回転させて画像データを読みとっていきます。このフォトマルはCCDと比べ濃度レンジが広いのでシャドーの階調も忠実に表現されるとされますが、スキャナ本体の価格がとんでもなく高価である事とスキヤニング作業に手間と慣れが必要となります。



フラッドベッドスキャナ



ドラムスキャナ

現行のデジタルプリントは何でスキヤニングしているの?

一般にデータ入力用に使われているのはほとんどがフラッドベッドスキャナを使用しています。やはりコストや手間の問題から仕方が無い事かもしれませんが、出力されたプリントはデジタルっぽい事はありますが四つ切サイズ位では従来プリントとそれほど変わらなく、ある意味エッジが立ってデジタルのキレイさが目立つかもしれません。

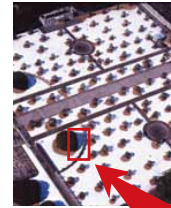
ただ問題は私たちが使う中判・大判カメラの大判プリント出力なのです。せっかく中判・大判カメラで撮った高解像度フィルムをフラッドベッドスキャナで取り込んで出力して果たしてその精密描写が再現できるかです。

おまけのおはなし?

ドラムスキャナの料金は1千万以上とも言われ、1枚ずつスキャンするドラムスキャナに近いタイプの機械でも250万円もします。現像所の中にはドラムスキャナを導入出来ずに、フラッドベッドスキャナで全てのポジプリントをしている例もあります。クオリティの高いプリントを目指す方はご注意ください。

ドラムとフラッドベッドの違いは?

カレンダー制作を引き受け、せっかく創るならば大判フィルムを使おうと、「迎賓館」が写った大判フィルム(写真①)をA2サイズ出力でフラッドベッドでスキャン(350dpi)しました。出来上がったデータを見て、サンプル出力しても、シャドー一部の階調や鮮明度はどうも納得がいきませんでした(その拡大画像が写真②)。そこで、A2出力1枚が定価で1万円もするドラムスキャナでスキヤニング(350dpi)を外注しました(拡大画像が写真③)。これにはビックリで、普通紙で出力しても暗部が潰れていない事が解る一目瞭然の素晴らしいデータが上がって来ました。これは間違いなく濃度レンジの違いで、高品質の画像を入力にはドラムスキャナが優れていると実感でした。



写真①

写真上が「迎賓館」のオリジナルポジです。写真中央がフラッドベッドでスキヤニングしたデータの拡大写真。右が同条件でドラムスキャナでスキヤニングし拡大した写真です。



写真②



写真③

今後の中・大判カメラのプリントは?

風景写真等の精密描写が必要になるプリントでは、全紙サイズ以上はドラムスキャナを使用すべきと思っています。問題は高額なドラムスキャナ入力費用をどうするかという事です。ワズクリエイトでは取引プロラボとの協議で、このスキヤニング費用をプリント費用に加算することなく、通常のデジタル出力プリント代金のままで行う事を決定致しました。是非ドラムスキャナで取り込んだポジプリントを体感ください。

ドラムスキャナでのポジプリント(全紙以上)を実現 ワズクリエイト提携プロラボによる高品質現像とプリント

プロラボ現像価格 (リバーサル)		プロラボ現像価格 (モノクロ)		リバーサルプリント価格	
現像種類	ワズ価格	現像種類	ワズ価格	プリント種類	ワズ価格
4x5 インチノーマル現像	¥275+税	4x5 インチノーマル現像	¥352+税	6 切り グロッシェ	¥1870+税
4x5 インチ増減感現像	¥336+税	4x5 インチ増減感現像	¥700+税	4 切り グロッシェ	¥2975+税
5x7 インチノーマル現像	¥534+税	5x7 インチノーマル現像	¥1143+税	半切 グロッシェ	¥5148+税
5x7 インチ増減感現像	¥640+税	5x7 インチ増減感現像	¥1334+税	全紙 グロッシェ	¥6549+税
8x10 インチノーマル現像	¥884+税	8x10 インチノーマル現像	¥1143+税	大全紙 グロッシェ	¥7018+税
8x10 インチ増減感現像	¥1067+税	8x10 インチ増減感現像	¥1334+税	全倍 グロッシェ	¥15300+税
120 ノーマル現像	¥458+税	120 ノーマル現像	¥572+税		
120 増減感現像	¥534+税	120 増減感現像	¥1000+税		
220 ノーマル現像	¥915+税	135-24 スリーブノーマル現像	¥572+税		
220 増減感現像	¥1067+税	135-24 スリーブ増減感現像	¥810+税		
135-24 スリーブノーマル現像	¥443+税	135-36 スリーブノーマル現像	¥572+税		
135-24 スリーブ増減感現像	¥534+税	135-36 スリーブ増減感現像	¥1000+税		
135-36 スリーブノーマル現像	¥720+税				
135-36 スリーブ増減感現像	¥865+税				

◎ネガ現像も承ります。
価格はお問い合わせください。
◎その他、大型 D プリント、加工各種 (パネル、額装、木製、ドライマウント等) お問い合わせください。

ワズクリエイト TEL03-5689-2776 tokyo@yscreate.co.jp

大判カメラ のすすめ

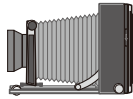
その5



今号の「大判カメラのすすめ」は、後先逆になってしまった感がありますが、大判カメラの種類と特長についてまとめてみたいと思います。大判カメラは大きく分けるとテクニカルカメラとビューカメラの二つに分かれます。実際にカメラを比較して見ようと両機を並べて撮影したのが上の写真となります。では同じ大きさのフィルムで撮影するカメラがこんなにも形状が違うのは何故かを解説して行きたいと思います (木戸 嘉一)

テクニカルカメラとビューカメラ

大判カメラはテクニカルカメラとビューカメラと大きく2つのタイプに分類する事が出来ます。テクニカルカメラはフィールドカメラとも呼ばれ、箱状に折り畳め携行性を重視して作られたもので主に風景写真、山岳写真撮影の用途に使われています。ただし設計上、アオリ量は制限されるため大きなアオリが必要とされる商業写真撮影には向いていないとされています。一方ビューカメラは大判カメラの最大の特長であるアオリ機構を最大限活用するために前枠(レンズ部)、後枠(ピントガラス部)を蛇腹で繋ぎ、レール上にセットし前枠、後枠の稼働を最大限活かしています。アオリ量の大きさや使用レンズの幅の広さで商品撮影、建築写真、近接・接写撮影等に使われています。ただ構造上、かなりのカメラ重量があるのとコンパクトに畳めない事もあり風景写真、山岳写真撮影等には不向きと言えます。



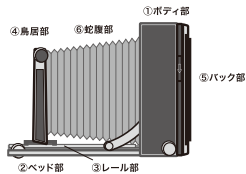
テクニカルカメラ



ビューカメラ

テクニカルカメラ

テクニカルカメラには金属製タイプと木製タイプの2種があります(以前は樹脂製もありました)。一般的に金属製テクニカルカメラの方が「重いけど精度が高い」、木製テクニカルカメラは「軽いけど精度に問題がある」等と言われていましたが、木製カメラにも精度が高いものや、重いものもありますので一概にどちらが良いとは言えないと思います。山岳カメラマンの中には軽い事が最大の基準となって軽量の木製テクニカルカメラを使っている人もいます。

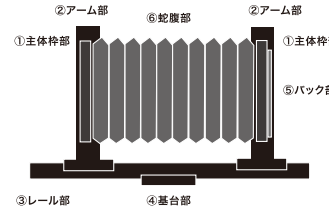


【テクニカルカメラの構造】

- ①ボディ部=テクニカルカメラの骨格とも言える箱形の構造体。
- ②ベッド部=ボディ部前面に設けた蓋状部材。
- ③レール部=ベッド部にピント合わせのために前後に稼働するよう設けられた部位。
- ④鳥居部=大判レンズを取り付ける部位でこの部分にフロントアオリ機構を集約している。
- ⑤バック部=ピントガラスを組み込みピントと構図を確認する部位でバックアオリ機構も設けるカメラもある。
- ⑥蛇腹部=ボディ部と鳥居部を繋ぐ遮光性の優れた伸縮性の部位。

ビューカメラ

アオリ機構を最大限に活用できる事や、超広角から超望遠までの大判レンズが使用できる様に設計された大判カメラで主に商品写真、建築写真等に使われている。アオリ撮影のためにアオリ機構を最重要視して設計された大判カメラだけにかかなりの重量と容積がある。したがってスタジオ専用カメラだとか自動車から半径数十メートルで撮影するカメラ等とも言われている。また流石に木製のビューカメラは無くして全て金属製のいろいろな撮影に対応出来る様に豊富なアクセサリーも揃っている。



【ビューカメラの構造】※メーカーにより構造に違いがあります。

- ①主体枠部=レンズを装着するフロント用とピントガラスを装着するバック用で構成(同一構造)。
- ②主体枠を保持する部位。主体枠と同じ様にフロントとバックと2部位になり主体枠が稼働する様にも設計されている。
- ③レール部=前後アーム部を保持し更にピント調整等でアーム部が可動するようにも設計されている。
- ④基台部=三脚雲台に固定される。更にレール部の可動も可能。
- ⑤バック部=ピントガラス枠付きで後部主体枠に取り付けられる。
- ⑥蛇腹部=前後の主体枠を繋ぐ遮光性の優れた伸縮性の部位。広角レンズ使用時には広角専用蛇腹もあり。

■代表的なテクニカルカメラ



■代表的なビューカメラ



日本リンホフクラブ主催 『大判カメラ基礎勉強会』

「銀塩写真文化の継承と発展」を目標に活動を続ける日本リンホフクラブでは、大判カメラ初心者、まだ大判カメラを持っていない人、大判カメラに興味のある方を対象に「大判カメラの基礎勉強会」を開催しています。会員以外でも誰でも無料で参加出来ます。参加ご希望の方は必ず事務局までお申し込みください。

- 開催日 2014年11月15日(土)10時~13時
- 場所 新宿御苑 大木戸門 売店建屋 集合
- 参加費 無料
- 講師 日本リンホフクラブインストラクター

参加費無料



日本リンホフクラブ事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 株式会社ワイズクリエイト内
TEL: 03-5689-2776 FAX: 03-5689-2786 info@linhof-club.com



※ワイズクリエイトでも大判カメラ勉強会を毎月開催しています。詳しくはホームページでご確認ください。

魚付原生林 としても有名な 森の撮影スポット 『真鶴半島』に注目。

《撮影地紹介》

今号の撮影地紹介は「真鶴半島」です。真鶴半島は神奈川県足柄下郡真鶴町にある小さな半島で、海岸は高さ20メートルほどの岸壁が続きます。陸上には松や楠、椎などの常緑樹の大木とシダ類が生い茂る原生林が残されています。原生林の中を幾つかの遊歩道が整備され、森や樹木の撮影にも最適な場所です。半島先端の真鶴のシンボルとも言える・三ツ石は、海からの日の出写真撮影にもチャレンジできます。(元旦の日の出撮影ポイントとして有名) アクセス環境も良く、東京から東海道線と路線バスで行ける手軽な撮影地と言えます。



①三ツ石は日の出撮影のスポットとしても有名です。
②ケーブル真鶴より少し降りた場所からも三ツ石を臨むことができます。
③番場浦遊歩道を歩いて真鶴岬に向かう。道は起伏があるので注意。
④駐車場から番場浦に降りる。穏やかな海岸からも撮影可能。



⑤ケーブル真鶴は食事やトイレ利用も可能。またバス停もあります。
⑥ケーブル真鶴裏には与謝野晶子歌碑。ここから三ツ石に降りられます。
⑦自動車利用のカメラマンに便利な駐車場。遊歩道にも直接アクセス。
⑧駐車場から直ぐの場所にも、こんな巨木があります。



⑨遊歩道から見上げると照葉樹の巨木があります。
⑩森林浴遊歩道と御林遊歩道が交差するポイント。ベンチもあります。
⑪森林浴遊歩道を歩いていると何本もの巨木を発見できます。
⑫森林浴遊歩道から番場浦遊歩道に抜けることができます。
⑬森林浴遊歩道の途中にあるクロマツは残念ながら折れていました。
⑭魚付林と言われる事が納得できる木々は人間も引き寄せます。
⑮御林遊歩道から中川一政美術館に向かうことも出来ます。
⑯森の中の神社は歴史を感じます。梅雨時の紫陽花にも注目です。

《電車とバスで行く真鶴半島撮影モデルケース》

真鶴半島の原生林には自動車が無くても電車とバスを使って手軽に出掛けられます。右記のスケジュールでも5時間以上も撮影時間を楽しむ事が出来ます。是非お出かけください。

【往路】	【復路】
東京駅発 JR東海道線 8時36分	ケーブル真鶴発 路線バス 16時35分
真鶴駅着 10時16分	真鶴駅着 16時49分
真鶴駅発 路線バス 10時35分	真鶴駅発 JR東海道線 17時13分
ケーブル真鶴着 10時47分	東京駅着 18時47分

※電車・バスの時刻は2014年7月現在のものです。

2014 秋の八ヶ岳高原撮影会 撮影指導・石田研二

2014年の秋の撮影会は八ヶ岳高原周辺です。八ヶ岳は長野県の諏訪地域と佐久地域および山梨県の境にある山塊。南北に30キロ余りのエリアには写真撮影の名所、白駒池、苔むした巨木群、白樺林などが在り多くのカメラマンを魅了しています。丁度紅葉シーズンに突入する時期で、パリエーション豊かな写真撮影が可能になります。人気の八千穂高原自然園、白駒池等も撮影予定地ですので是非ご参加ください。また写真学校で講座を持つ石田研二先生の撮影指導にも注目です。

- 開催日 10月3日(金)～5日(日)
- 撮影地 八ヶ岳高原(白駒池、八千穂自然園他)
- 集合 事務局8時30分出発、東京駅9時出発
- 講師 石田研二(日本写真家協会・写真学校講師)
- 参加費 70000円(税込)※2泊泊費、2朝食、3昼食弁当、2夕食付き。全行程チャーターバス代、旅行保険代、撮影指導料等)
- 宿泊 ルートイン等のシングルルームを予定。
- お申込 必ず事前にお申し込みください。
- 交通 全行程チャーター中型バスになります。
- 備考 ワイズ大中判写真の会との共催です。



石田 研二 (いしだ けんじ)
京都府出身。大阪芸術大学デザイン学科卒業。写真家の野町和嘉に師事。その後、フリーとなり個展、グループ展に多数参加し活躍する。日本写真家協会会員、フォトボランティア JAPAN 会員、日本写真芸術専門学校講師、東洋美術学校講師。

編集後記

今号の巻頭特集は写真家の大山謙一郎さんにご登場頂きました。大山謙一郎さんと言えば「女性写真」の第一人者との認識ですが、カメラマンとしてのスタートはとりわけ撮影技術が要求される広告写真からでした。だからその撮影技術をポートレート、スナップ写真に活かして、いつまでも第一線で活躍されているのを再認識しました。また「この人を訪ねて」はカメラ雑誌「フォトコン」の藤森邦児編集長をインタビューしました。藤森編集長の写真と雑誌編集への拘りを感じて頂けたらと思います。因に、藤森編集長がフォトコンを発行する日本写真企画社に入社した1999年にワイズクリエイイトも創業しました。同社社長の石井聖也さんが「新入社員は藤森です。今後とも宜しくお願い。」と連れて来られたのを今でも覚えています。大学を卒業したばかりの藤森編集長が今ではカメラ雑誌を代表する編集長になり、つくづく月日の経つのが早い事を実感します。事務局 木戸嘉一